

【No. 81062264 LOGOS 鉄の職人たき火パン24】

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、必ず保管してください。
本品は調理使用を目的とするものです。それ以外の目的でのご使用は絶対にしないでください。

【ご使用になる前に】

- 本体(鉄製調理器具)は樹脂加工(テフロン加工)と同じ様な感覚で使用すると素材をこがしてしまいます。
お手元に届きましたら食器用洗剤でフライパンを洗いその後、水気を十分に取り**油返し**を行ってください。
また、すぐにご使用にならない場合は洗浄後水気を十分にとりフライパン全体に食用油をひいて保管してください。
- ガタつきや、ひび割れ等の不具合がないかご確認ください。万一、不具合があった場合は使用を中止してください。

IH 調理器
OK※

ガス調理器
OK

シーズ
ヒーター
OK

ハロゲン
ヒーター
OK

<油返しの方法>

- フライパンをガスコンロに置き、火にかけて十分に熱します。(中火以下で底面から炎が出ない程度)
 - 大さじ2~3杯程度の油を入れて、フライパンの肌(内側全体)に油をなじませます。
 - 油が熱くなり、かすかに油煙が出てきたら、油をオイルポットに戻します。
 - 調理に合わせて再度適量の油を入れて調理を開始する。
- フライパン全体が真っ黒になり油が馴染んだら毎回の油返しは不要です。
 - 本体が冷たいままの状態ですぐに調理すると、こびりつきやすくなりますので、本体全体の温度が上がってから料理に適した火力にし調理してください。
(但し、本体底面全体がかくれる程度油を入れて調理する場合は本体が冷えた状態から調理して頂いても結構です。)
 - 使用中、本体が強く熱せられる箇所とそうでない箇所とで表面の色が違ってきますが、これは異常ではありません。鉄の持っている特性ですのでそのままご使用ください。

【使用安全上の注意】(すべての熱源対象)

- 調理中・調理直後は取手が熱くなり、火傷の危険がありますので、革手袋や布製鍋つかみ等を必ずご使用ください。
- 本体のフチ付近まで水や油を満した状態で使用しないでください。
- 揚げ物調理を行わないでください。油に火が入る恐れがあります。
- 隣接するコンロの炎が取手に触れない様に注意してください。
- コンロの火が本体底面より大きくならない様にしてください。
- 本体中央が膨らんだり、ひび割れの原因になりますので「急加熱・急冷却」しないでください。
- フライパンが変形し、安定した状態で調理できない場合は使用を中止してください。
- IHで使用する際は、下記の【IH調理器を使用する際の注意事項】を読んでください。
- 炒め物が黒っぽくなる場合があります。それは、本体の「鉄分」と「野菜の色素成分」が反応するためです。
無害ですので召し上がっても問題ありません。
本体の臭い移り、極端な材料の変色、サビの発生を防ぐために、火を止めたらすぐに別の器に移し変えてください。
- フライパンをテーブル等に置く際は、焦げ付いたり傷付いたりしても良い場所に置いてください。
- ハンドルは本体に溶接で取り付けられています。ハンドルと本体の間には非溶接箇所が一部ございますが、溶接工程上の仕様によるもので、通常使用で取手が外れたり壊れる心配はございませんのでご安心ください。

●警告●

調理中は本体のそばから離れないようにしてください。
火災の原因となります。

【お手入れ方法】

- 使用後は温かいうちにパームタワシ、ササウ等で洗剤をつけずにお湯で洗ってください。
- こげがひどくてとれない場合はお湯を入れ煮立たせ、こげがやわらかくなったらナイロンタワシなどでこすってください。
- サビがひどい場合は金属タワシやナイロンタワシなどで強くこすり、サビを取り除いてください。
金属たわしやナイロンたわしを使用し、表面にこすり傷が出来た場合でもご使用に問題はありません。
- 汚れがひどい場合は洗剤を使用し洗ってください。
- 洗浄後は加熱し水気を飛ばし、その後油を薄く塗ってください。
又、長期使用により本体全体に油が十分なじみ表面が水をはじく様な状態になれば洗浄後、布やペーパータオルなどで水気をふきとるだけでも結構です。
- 保管の際は、新聞紙などで包み乾燥した冷暗所に保存してください。

【IH調理器を使用する際の注意事項】※

- ※IHの機種によっては反応せず使用できない場合があります。
- 電源を入れると急激に本体が加熱されるため、電源を入れたらすぐに火力を「中」以下にしてください。
最大火力で加熱すると本体底面が変形する恐れがあります。
- IH使用時は強火や空焼きをするとフライパンの底が変形するおそれがございます。ご使用時は火力にご注意ください。
- IH調理器はドーナツ状に発熱しているため、この部分が高温になり焦げやすくなります。
- 調理中に「ブー」「ジー」等の音がすることがあります。フライパンの重さや位置、内容物の量、加熱状態等の要因でフライパンと調理器が共振することが原因です。
その場合は「鍋の位置をずらす」「火力を弱める」「調理器の置く場所を変える」等すると音が止まる場合があります。